イエスって誰？

わたしたちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝える。わたしたち自身は、ただイエスのために働くあなたがたの僕にすぎない。

コリント人への手紙第二４章５節

ピーター・ウオーカー
www.1peter1three.weebly.com

この小冊子は、皆様読者の方々に捧げます。イエス・キリストについて分かち合う機会をいただき、感謝します。

聖書に関し、私自身正式な学びを得たわけでもなく、数ある神学教義の中で私自身の位置つけも定かではありませんが、確かなことは私はキリスト教徒であり、聖書の御言葉を心から愛しています。この小冊子を通し、イエス様について知っていただけたら嬉しいです。

はじめに：

“イエスは 誰？”という疑問をもっていますか。ならば、最高です。

もしかしたら、今、神さまに怒りを感じている方、神さまを信じていない方もいるでしょう。もしかしたら、神さまを信じているけど、心が傷ついている方がいるかもしれません。もしかしたら、イスラム教、ヒンズー教、仏教、または別の信仰をもっておられるかもしれません。もしかしたら、自分でも説明できない何かにすがっているかもしれません。みなさん、それぞれ色々な立場に立っておられるかと思いますが、聖書は、はじめから終わりまでみなさんひとりひとりを歓迎しています。そして、自ずと”イエスって誰？”という問いかけを求めることでしょう。

皆さんの中で、私自身でお答えできない、またはこの本で指摘していない、様々の質問があるかもしれませんね。この小冊子では、単にイエスの一信者としての私の思いをお伝えしたいのです。私の発信元は私自身の信仰、聖書、そして神の霊であります。

聖書は 66 の文書、または著書で構成されていますが、どれも神さまのことば（霊感）により書かれたと信じています。どんな良書、または真実を書いた書物でも起こりうるのと同じで、聖書も正しく理解されなかったり、誤用されたり、疑いを喚起したりすることがあります。人間のすることですから、聖書の誤った扱いかたをしたとしても、聖書自体は、真実を求める誠実な者にとっては、神さまの御言葉を確かめる確固たる発信元なのです。聖書の大部分は、正式な教育の無い者たちによって書いていますが、読む人にわかりやすいように書かれていると思います。神さまは聖書の中でかくれた存在ではありません。神さまご自身が私たちに存在をあらわしてくださっているのです。

それでは、早速「イエスって誰？」という最重要な問いについての私の見解をお話しましょう。

イエスって誰？

イエス・キリストは、”救い主”という意　　味ですが、聖書のなかでイエスは人のかたちをした神さまだと教えています。神さまは、私たちが、神さまを個人的に知ることができるように、そして、神さまとの確かな交わりがあるように人として天国から降りてこられたのです。

イエスは肉体をもった神さまです。私たちの罪を許し、永遠の命を授けるためにこられたのです。以上がイエスが誰か、なぜ私たちのもとに来られたのかの説明です。

啓示

上記の事実について、聖書は計り知れない不思議な真実であり、かつ不可解だと言っています。私たちを救うために神さまが人間として現れた、ということ事実は理解しがたいことです。全く不可解です！私たちにはあまりにもスケールの大きすぎる事実です！まさに聖書自体、この素晴らしい真実は私たちの叡智に勝る真実だと言っています。この真実である神、イエス・キリストは、”霊と真実”であり、知性では理解しがたいが、私たちの霊や心の中に働きかける啓示によって”新たかになる”、と言われています。神さまを理解しょうと自分の解釈の中に神さまを収めようとすると、精神的にも霊的にもなかなか自分の思う通りにならないものです。しかし、今みなさんにとって友人、家族、喜び、愛、平安、許し、慈しみなど、人生で大切なものについては、知性の観点よりむしろ心や、霊的な観点から、真実を見いだせるといえるのではないか思います。実際、多くの場合、知性や頭で理解していることを重視するあまりに、心の奥に潜む真実や人間関係をおろそかにしていないでしょうか。心よりも頭で理解していることを優先させて、あとで後悔したことがありますか。神さまを私た

ちの考える枠や、乏しい理解力のうちにおさめようとしたなら、神さまご自身とても小さな神さまになってしまいますよね。

聖書の中で、”神さまは霊ですから、神を礼拝する者は霊とまことによって礼拝しなければならない。”とあります。イエス自身、ご自分の言葉と啓示について、”私があなた方に話すことばは霊であり、また命です。”と言っています。

イエスの語る真実のことばをきいて、頭で理解するのは難しいけれど、心の戸びらを叩かれていると感じていますか。

キリストのメッセージ：

イエスが、人々に”信じること”を求めているのはとても興味深い点です。彼は金銭や富を授けるために来たのではありません。宗教上の教義に対する問いに答えるために来たわけでもありません。彼は次のようなことを言っています。“誰でも渇いているなら、私のもとにきて飲みなさい。私を信じるものはその人の心の奥から生ける水の川が流れ出るようになる。
“イエスは私たちに”渇いているか”という問いかけに対し、"生ける水”を約束しています。これは私たちには、ぴんとこないかもしれないし、一見意味をなさないな言葉にきこえます。それでいて、わたしたちの心の琴線にふれ、心の糧として思いがけない何かを満たしてくれている気がします。

“渇いていますか”、という　このイエスの問いはあなたの魂に共鳴するところがあるでしょうか。

ほかの場面でも、イエスは群衆に”疲れているか”という問いかけをしています。そして、別の意味での”安らぎ”を約束しています。

イエスは数ある奇跡を行いましたが、その奇跡には、特別な目的があったのです。ある時、イエスは大勢の群衆に奇跡を行う目的についてつぎのように話しました。それは、イエスご自身が罪を許す力を持っている事実を私たちが理解するためだ、と言いました。彼の奇跡によって、単に限られた人たちの生活が短期間に向上することが目的ではなかったのです。奇跡によって、私たちの罪を許してくださるイエスの力を目の当たりにし、天国に私たちの名前が書きとめられるのを確かにするためなのです。

それでは、彼のメッセージは何だったのでしょうか。どのようにしたら、この”命”、この”安らぎ”、心に”生ける水”を得られるのでしょうか。

イエスのメッセージは次に箇所で文字通り、私たちひとりひとりに呼びかけておられています。

“私は門です。だれでも私を通って入るなら、救われます。” イエスは神さまについて直接的な教えを説いていません。イエスは私たちが神さまを知るために私たちをご自身のもとに招いたのです。あなたにとって今、人生の中でもっとも意味深いものは、物質とか、思想ではなく、かけがえのない”誰か”ですね。今、このことについて、考えてみてください。一日の終わりにあなたにとってもっとも大切なものは何でしょうか。それは、きっと”誰か（人）” にちがいないでしょう。神さまにとっても同じです。神さまにとってのまことの賜物はあなたがたひとりひとりとの関係です。イエスが人となられた目的は、あなたや私が実際、彼を見たり、触れたり、知ることができるためです。事実、イエスの名前のひとつに ”エマニエル” という名がありますが、”神は私たちと共におられる”という意味です。人としての神であるイエスは、今もそして永遠に私たちと共におられるためにこられたのです。

神さまを身近に知りたいと思いますか。

信仰:

イエスは彼を“信じる”ことを私たちに挑んでおられます。これは彼が実際に周りの人に呼びかけていたことで、その結果その人たちはイエスを間近に”見る”ことができたのです。イエスを見ることができたなら、なぜ”信じること”が強調されるのでしょうか。

“信仰”について次の２つのことが考えられます。

1. 真の友達はあなたを信じる！

これまで”友人”だと思っていた人が実 は本当の友人ではなかったという経験が ありますか。この人はあなたのことを見 て、知って、一緒にいるときも認識している。つまり、あなたと何らかの関係が あるのですが、あなたのことを信じていません。このような人たちはおそらく心のなかのある部分をあなたに対し閉ざしているのです。このような関係をもった 経験, 感情に心当たりがありますか。

イエスは肉体のかたちをした神さまとして、私たちのもとにこられました。彼の名、エマニエルは”神は私たちと共におられ る”という意味です。イエスは、単に私たちが彼を認知するのみにとどまらず、私たちと愛と信頼で結ばれた関係を築くためにこられたのです。お互いに信頼できること、これがまさに生き血の通った真の友情だと言えます。

イエスは”あなたを友と呼ぶ。”と言いました。イエスは、また人が友人のために　命を捨てる、というこれよりも大きな愛の表現はない、と言われました。

2. 目で見ることは信じることではない

イエスがこの世に来られたとき、大勢の人たちが彼の力を目撃したにもかかわらず、彼を心から信じませんでした。あなたがたも私と同じように、”イエスを実際 に目の当たりにしていたら”と思っているかもしれませんね。実は、イエス自身をその目で見て、彼の奇跡の力を目撃したほとんどの人たちは、彼のことを信じませんでした。事実、信じないどころか、奇跡をみて、人々は、イエスに反感さえ感じたことが多かったのです。そして最後は、イエスを見た者たち、イエスの教えを聞いた者たち、一緒に歩いた者たち、奇跡を目の当たりした者たち、誰もがイエスに対し、陰謀を企てたか見捨てたのです。イエスはご自分を目の当たりにした人々に囲まれて、朝の光の中で、殺されました。

イエスは視覚ではなく、心からの信仰を呼びかけています。人びとはイエスを目心の目で見ることなく、彼を殺してしまったのです。私たちは目で見えるものに　対して信頼を置いたり、従ったりすることはできないのです。イエスの弟子たちのように、その時だけ、忠実になれても、ある時は私たちの目や、思考、心に自分自身失望し、信仰を貫くことができなくなるかもしれません。またある時は、私たちが目前にしたり、かつて愛したものに対して背を向けることもあるかもしれません。

イエスは弟子のトマスにいいました。”見ずに信じるものは幸いです。”

この世で、イエスは私たちが心の目で見て、信じる（教えを受け、従い、守り、礼拝する）ことを望んでおられます。イエスはあなたがたとまことの関係、友達関係を願っておられます。いつか、天の栄光にたどり着いたとき、私たちは純粋な目で見て、心も平成を保ち、イエスと対面することでしょう。しかし、今要求されているのは心からの信仰です。

あなたは、心の目でイエスを見ていると思いますか。

宝：

なぜイエスを見たり、信じたりすることが難しいのでしょうか。世界中の人たちはなぜイエスについて、聞いたり信じたりしようとしないのでしょうか。

聖書を読んで驚くことは、いかに神さまの摂理の新たかなことです。この世が始まって以来、神さまは私たちを平等に愛してこられたにも関わらず、神さまを”知る”人もいれば、そうでない人もいました。これは、永遠に理解できない、解明できない、説明できない事実です。

イエスがこの世にいらして、説教をし、奇跡を行った時も全く同じでした。ある人は、地に伏して”あなたこそ主です”と言いました。他の人たちは、彼を蔑み、罵倒し、彼の権限に挑戦的なことばを投げつけました。これはなぜでしょう。なぜある人は、キリストを見て神さまと認知し、ほかの人たちは同じ場面でキリストを見て単に一人の人間だと思ったのでしょうか。説明がつきません。

しかし、これまでイエスの生涯や教えについて理解したことは、彼は、実に奥深く、穏やかな佇まいであることです。彼の言動はまことに奥ゆかしく、優しさに満ちているのです。人がイエスのありのままの姿、つまり”私たちと共におられる”実態を知ったとき、この真実はその人の心の中枢に達し、永遠に人を変えてしまいます。この真実は、まことに尊く、神聖で、神秘にみちているため、私たちは全く気付くことなく、見落としてしまっているのです。世の中のいろいろな雑音や、日常生活の中での私欲に気をとられ、神さまの奥深い摂理を見過ごしてしまっているのです。

イエスはこの真実を説明するのに、とても短い例え話をしています。”天

の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つけると、それを隠しておいて大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。

”みなさん、イエスが宝であることが見えてきたけど、周りの人たちには、見えていない気がしてきましたか。

血：

イエスの話は実にすばらしいです！神さまとして私たちを罪や ”汚れ” から解放するためにこの世に来られたのだと言われています。最も深い罪というものは血痕を残すものです。人の生命のもととなる血液そのものが,暴力, 虐待, 不幸や死に見舞われた時に流されるのです。この事実は、直接的、また間接的に誰もが経験することです。私たちは、奴隷制や虐待を経験してきた世の中に住んでいるわけで、誰もが自分自身で血を流したか、他の人の流した血の恩恵に預かっているのです。これは生々しい、不快な事実ですが、この世の闇の真髄には流血の実態があるのは確かで、その結果、私たちは神さまから隔離されてしまうのです。

そのようなわけで、イエスは私たちのもとに送られて来ました。イエスは、私たちを自分たちの罪や暗闇から解き放したいと願っているのです。私たちが耐えてきた不正や過ちから解放されることを願っているのです。私たちひとりひとりの魂、心、そして私たちの住むこの地さえも癒し、健全にしたいと願っているのです。イエスはこの驚くべき霊的な方法で、”罪の贖い” や ”許し” のすべをもたらしてくださったと言われています。イエスは私たちの罪をご自身の人と身で受け止め、罪と共に亡くなられたのです。聖書の一節は次のように書いています。”神は私たちの代わりに罪となられた。”

イエスは、私の罪と恥をご自身に負われ、それとともに亡くなられたのです。私の罪と共に亡くなられたイエスは死からよみがえったのですが、私の罪は彼と共に戻りませんでした。彼は私の罪を抱えて死を遂げて下さったのですが、そのあと、罪を墓場に葬り、赦しと新しい命だけをもって戻ってきてくださったのです。

聖書の中にこのパワフルな一節があります。イエスの血は私たちの罪による血よりも”優れたことを語る。”

このような理由から、私たちはイエスを信じ、彼の赦しを受け入れることで、彼の犠牲の血、”イエスの血”に感謝します。

イエスの血によって、”洗わられたい”ですか。

霊：

イエスは生きている！ 彼は実在し、天国にいます。ある日、”顔と顔を向き合わせて” 会うことができるでしょう。

イエスが弟子たちに、まもなく地球を離れ、天国に行くことを伝えたとき、喜びなさい、悲しまないで、と言いました。なぜなら聖霊がおとずれ、彼らのうちに宿るからだと。

イエスがこの世にいらしたとき、彼は人のかたちにとどまっていました。イエスが、ある村を訪れていたとき、ほかの場所に同時に居合わすことはできませんでした。イエスが平安をさずける目的である人に触れたとき、他のひとに同時に触れることができませんでした。彼は人のかたちをしていたので、私たち同様、別の空間や時間に共存することに限りがあったからです。

イエスが天に召されたとき、イエスの霊、つまり聖霊が地球のあちこちに降り注がれました。これによってイエスご自身とイエスの平安が、一斉にそれぞれの町や一人一人の心の中や人の住まいのうちに見い出されました。それと同時にイエスは私たちと共に歩くだけではなく、私たちの心の中に宿っていたわけです。

イエスはすでに地球での使命を果たしてくださって（私たちを赦し、永遠の命を授けるために十字架の死を遂げ、復活された。)、天国におられます。私たちは、聖霊を通じて イエスと繋がっているのです。

私たちがイエスを信じることによって、彼は聖霊をとおして私たちのもとにこられます。そして、”神さまは私たちと共におられる” とあるように、文字通り私たちの心の中、魂、精神の中に宿っておられるのです。

イエスを信じたいと思いますか。そして彼の聖霊をこころのなかに、あなたの生活の中に迎えいれたいと思いますか。

招待

イエスは言った。”わたしは門です。誰でも私をとおって入るなら救われます。”（ヨハネの福音書 10:9)

今、イエスをあなたの心の中、人生に招き入れたいですか。

これは精神的な決断です。イエスに人生を捧げることによって、あなたの罪は救われ、永遠の命を得ることができます。イエスを知った瞬間、あなたは新しい人生を踏み出すわけで、”いよいよ輝きを増して真昼となる”のです。（箴言 4:18)

死から生への橋をわたり、イエスを知るためには次の 2 つのことが要となります。下記に書いたとおりですが、同時にお祈りも書きましたので、読んで心から祈ってみてください。

1. 罪の悔い改め

   自分の罪を悔い改める必要があります。これは、難しいステップですが、イエスが私たちに求めていることです。今、神さまの助けをもって罪を断った生活をすることを決心しなければなりません。それは、金銭欲、性欲、私欲、不正、中毒性、不貞行為、ポルノなどがその例です。

   罪の悔い改めは ”心の中で決心” するものでこの決心は後々自分の生活や家庭に反映されます。この決心をするにあたり、これまでの悪い習慣などを断ち切ったり、放棄したり、中止したり、諦めたり、これまでの関係を繕ったりする必要があるかもしれません。悔い改めることを決心し、改心する（悔い改めるとは、このことを意味します）ならあなたはつぎのステップに向けて正しい第一歩を踏み出していると言えます。

2. イエス・キリストへの信仰

先ほどどんな関係でもまことの信頼関係が必要であることをお話しました。イエスは私たちに彼を信じるように呼びかけています。イエスは私たちに信仰の一歩を歩み、その心構えを声高く宣誓することを呼びかけています。下記にお祈りを書きましたが、皆さんもご自分の祈りを書いてみてください。祈りは、自分の本心を語ったものでなければいけません。

あなたが罪を悔い改め、イエス・キリストに信じるなら、その瞬間聖霊があなたの心にすみつき、罪を赦し、あなたの名前は天に記録されるでしょう。

祈り：

イエス様、私を愛してくださってありがとうございます。私の罪のために死を遂げてくださってありがとうございます。私を赦し、永遠の命を与えてくださって、ありがとうございます。

今日、私の罪を悔い改めます。そしてあなたを心から信じ、心の拠り所とします。私の罪を赦し、あなたの聖霊で私を満たしてください。

主イエス様、私を救ってくださってありがとうございます。これより私の信仰を深め、いつかあなたと対面できる日が来るまで、一生あなたに従っていけるように導いてください。イエス様の名において、祈ります。アメン！

新しい生：

イエスを信じる決心をしたなら、あなたは救われたのです！許されたのです！あなたは”新しく生まれ変わった”のです。まさに神さまの真実です。これがイエスのメッセジです。

新しく生まれ変わった”信者”として毎日聖書を読み、イエスとともに祈ることはことはとても大事なことです。さらに自分に最適なキリスト教会を見つけ、そこで、信仰を高め、他の信者とともに成長することが肝要です。

聖書を持っていなければ、買うか、借りることをお勧めします。オンラインや書店で、探して見てください。

私は、一日一章 聖書を読みます。ルカの福音書から読み始めてはいかがでしょうか。そして読み続けてください。

それから教会を探してください。イエスに教会の選択について導いてくださるよう祈りなさい。信頼できるクリスチャンに教会を勧めてもらうといいかと思います。週に一回教会を訪れることを主に対する”犠牲”として最優先にしなさい。そのためにはスケジュールや、家計のやりくりを調整しなければならないかもしれません。主は、そのことで、あなたに栄誉をもたらしてくれるでしょう。

これを読んでおられる皆さんととぜひお話できたら嬉しいです！この信仰の一歩を歩んだなら、次のページのサイトにいってＥメールで手紙をかいてください。あなたと喜びをわかちあい、ともに祈りたいと思います。

兄弟、姉妹のみなさん、主の祝福がみなさんの上にありますように！みな

さんと主の家族として再会できるまで、イエスの御名において、主の恵みがありますように。主により、守られ、栄がありますように！

下記のサイトにて、ほかのリソースをご覧ください：
www.1peter1three.weebly.com

”願わくは主があなたを祝福し、あなたを守られるように。願わくは主がみ顔をもってあなたを照らし、あなたを恵まれるように。願わくは主がみ顔をあなたに向け、あなたに平安を賜るように。”民数記６：２４−２６

神さまの招き：コリント人への手紙 第二 5:20
キリスト、聖句、聖霊を知る：コリント人への手紙第一 2:2-3
聖書からのインスピレーションと誤った解釈：ヘブル人への手紙 4:12, エレミヤ書 29:13（マタイの福音書 4:1-11& コリント人への手紙第二 4:2 も参照）
無教育の著者：使徒行伝 4:13
イエスとは”主は救う”の意味：マタイの福音書 1:21
人のかたちをした神としてのイエス：イザヤ書 7:14/マタイの福音書 1:23; イザヤ書 9:6; ヨハネの福音書 1:1-5,9,14; ヨハネの福音書 8:58/出エジプト記 3:14; ヨハネの福音書 10:30; ヨハネの福音書 14:9; ヨハネの福音書 9:38/マタイの福音書 14:33/出エジプト記 20:5; ヨハネの福音書 5:46; コロサイ人への手紙 1:15-20; ヘブル人への手紙 1:3; ピリピ人への手紙 2:6-11; ゼカリア書 14:9/使徒行伝 4:12;　ヨハネの黙示録 1:13-18
罪を許し、永遠の命を授けるイエス：ルカの福音書 5:24; ヨハネの福音書 11:25-26; ヨハネの福音書 4:13-14
黙示録は読解が難しい？： ヨハネの福音書 6:37, 65; マタイの福音書 16:16-18; ローマ人への手紙 11:33-36; イザヤ書 55:8-9; 詩篇 36:9; コリント人への手紙第二 4:6; ヨハネの福音書 4:24 &ヨハネの福音書 6:63
キリストへの信仰: ヨハネの福音書 7:37-38; ヨハネの福音書 11:25-26; ヨハネの福音書 9:35; マタイの福音書 11:28-30; ルカの福 音書 5:24; ルカの福音書 10:20; ヨハネの福音書 10:9; ヨハネの福音書 5:39-40; ヨハネの福音書 15:13-15
”見る”ことは、”信じる”ことにあらず： ヨハネの福音書 11:45,53; マタイの福音　　書 26:56; マルコの福音書 15:25； ヨハネの福音書 20:29; コリント人への手紙 第二 4:6; コリント人への手紙第二 5:7; ヨハネの手紙第一 3:2; コリント人への手紙 第一 13:12
神は、全ての人を平等に愛す！:　ペテロの手紙第二 3:9; テモテへの手紙第

一 2:4; マタイの福音書 18:14; ヨハネの福音書 3:16
キリスト礼拝とキリスト拒否: ヨハネの福音書 9:38; マタイの福音書 14:33; ヨハネの福音 10:20; コリント人への手紙 第二 5:16
深く、静けさのうちに啓示を受ける: マタイの福音書 16:20; マルコの福音書 1:24,34,44; マルコの福音書 4:11; イザヤ書 6:9; コリント人への手紙 第二 5:16; 詩篇 42:7; マタイの福音書 13:44
キリストの血とキリストから授かる自由: イザヤ書 1:18; 詩篇 25:15; コリント人への手紙 第二 5:17; ガラテヤ人への手紙 2:20; ルカの福音書 4:18/イザヤ書 61:1;イザヤ書 42:3; 歴代志下 7:14; コリント人への手紙 第二 5:21; ヘブル人への手紙 9:22; ヘブル人への手紙 12:24
聖霊: ヨハネの福音書 14:1-4; ヨハネの黙示録 1:13-18; コリント人への手紙 第一 13:12; ヨハネの福音書 14:17,26,28
招きと新しい生: エペソ人への手紙 1:13-14; コロサイ人への手紙 1:27; 箴言 4:18;ヨハネの福音書 5:24; マルコの福音書 1:15; マタイの福音書 3:8; 使徒行伝 3:19; ローマ人への手紙 10:9; ルカの福音書 10:20; コリント人への手紙第二 5:17; ヘブル人への手紙 10:25; 詩篇 1; ヨシュア記 1:9; ヘブル人への手紙 4:12/テモテへの手紙第二 3:16
注）